平成３１年２月２０日（水）　第１０号　　吉川市立南中学校

学校教育目標

よりよく生きる

学校だより

吉川市立南中学校

南中学校
電話　982－1066
さわやか相談室
電話　981－8749

生徒数
第１学年　３０３名
第２学年　２８２名
第３学年　３１４名
計　８９９名

南中学校ホームページ
http://02.yoshikawa-ed.net/minami/

解決する力

校長　田　口　弘

▲2 年生校外学習“Tokyo で勉 kyo”岩倉高校鉄道シミュレータ体験

自動車メーカーホンダの創業者、本田宗一郎さんの話。小学生の時、通知表を親に見せられず、消しゴムでハンコを作って担任に返すと見事に成功しました。宗一郎さんなりに親に叱られないための「解決策」を考えたのです。その後、友達のハンコまで調子に乗って作っていたら、左右対称でない名前をそのまま彫ってしまい、悪知恵がばれたというエピソードは有名です。

私が４、５歳の頃、母親の自転車に乗せられてお祭りに行きました。人込みを歩いているうちに母を見失い迷子になりました。しかしある解決策を思いついたおかげで、泣いたり叫んだりせずに済みました。私は、自転車を停めたところに戻り、荷台をつかんで母を待ちました。必ず母はここに戻ると考えたからです。そしたら、ちゃんと母が現れました。５０年以上前ですが、母の安心した顔を今でも覚えています。

さて、いくつか話をしたのは、解決策を思いつけば絶望しないということです。皆さんには、ぜひ、問題が起きた時に解決策を考える力「課題解決力」をつけてほしいのです。私たちは生きていると毎日何かしらの課題にぶつかります。そんな時、自分で解決策を考えて乗り切らねばなりません。また、最近の、高校や大学入試では、どれだけ暗記しているかだけでは解けない問題があります。暗記したことに加え、更に、解決策を考える問題が多いです。世の中が、課題解決ができる人材を必要としているからです。暗記の量はコンピューターにかないません。自分なりの考えを持たず、言われたことをそのままやる人間の仕事は、ロボットに代われる時代になります。なにより、解決策を考えられる人に絶望はありません。どんなに大変なことが起きても、前を向いて歩くことができます。

▲次々に課題を解決し日本を代表する会社を作った本田宗一郎さん

このためには普段から、「何か解決策があるはず」と考える癖をつけてください。すると、色々思い浮かぶものです。生活の中で困ったことが起きたらチャンスです。考える力を磨いて、課題解決力を鍛えてください。そして、絶望ではなく希望をもって生きて行く力を身につけよう